



五色塚古墳を活用した地域活性化

森脇, 大翔

矢嶋, 巖

(Citation)

兵庫地理, 67:79-90

(Issue Date)

2022

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90009384>



五色塚古墳を活用した地域活性化

森脇 大翔・矢嶋 巖

I. 序論

現在、史跡を活用し地域を活性化させようとするさまざまな活動が全国で行われてきており、その中には古墳を活用した活動も多く見られる。2019 年における「百舌鳥・古市古墳群—日本古代の墳墓群—」の世界遺産登録により、古墳はますます注目されている。

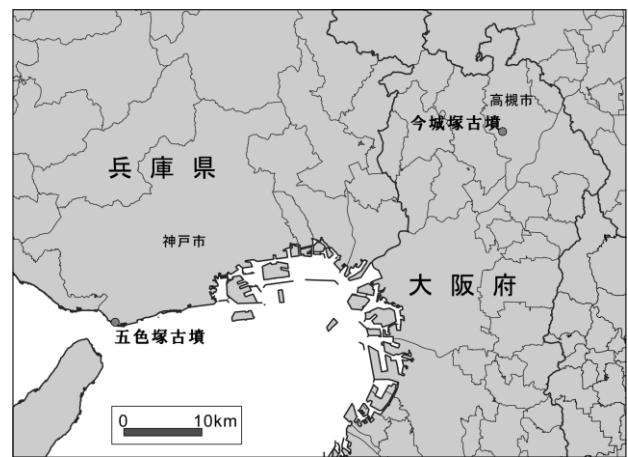
藤井（2004）によれば、さまざまな史跡整備が全国で実施されており、「とくに古墳の整備は、地域を代表する構築物として選択されることが多い史跡の一つ」である。古墳本体そのものの整備事業は、兵庫県神戸市の五色塚古墳（図 1）が最も大規模でその後の古墳整備に影響を与えたものであり、整備の際の基本形として認知されてきた。

また、藤井は「史跡整備事業によって、古墳が公共施設としての役割を担うことになった現代において、どのような役割を史跡に求めることができるかが課題」としており、「古墳は現代でも地域の象徴となりうる可能性がある」と述べている。このことから、地域の象徴となりうる古墳を活用することが、地域活性化につながると思われる。

藤井によると、古墳の整備は、史跡整備の中で一般的になってきたが、その整備においては現代まで残されてきた墳丘の姿を大きく変えることになり、史跡整備の効果に賛否が分かれる。古墳築造から今日まで保存されてきた古墳の経てきた歴史を史跡整備事業によって断絶することには、古墳の本質を失わないための慎重な検討が必要であるとのことである。

そこで本研究では、古墳を活用した取り組みがされている事例といえる神戸市の五色塚古墳を取り上げ、整備された古墳の活用状況や活用の意義を明らかにし、地域にとっての史跡としての古墳の役割について考えることで、五色塚古墳の取り組みにおけ

る今後の課題や、古墳を保存しながらどのように地域づくりに活かしていくのかについて明らかにすることを目的とする。その際、古墳を活用して地域づくりに取り組んでいる大阪府高槻市に位置する今城塚古墳（第 1 図）を参考にする。



第 1 図 五色塚古墳と今城塚古墳の位置

五色塚古墳は、大正時代に兵庫県下で最も早くに史跡に指定され、昭和時代に復元整備が行われた。墳頂から明石海峡や淡路島などを見ることができる風光明媚な観光地として知られている。神戸市や古墳の管理作業をする NPO 法人はさまざまなイベントを開催し、SNS を活用して情報を発信することで、観光客を集めている。また、神戸市内外から学校団体の訪問も多い。

本研究では、神戸市文化スポーツ局文化財課埋蔵文化財係の各担当者 3 名から 2021 年 5 月 21 日、2021 年 9 月 6 日に、神戸市埋蔵文化財センターの担当者 3 名から 2021 年 8 月 13 日、2021 年 8 月 25 日、2021 年 8 月 27 日に対面による聞き取り調査を行った。神戸市立霞ヶ丘小学校教諭には 2021 年 8 月 30 日に電話で聞き取り調査を行い、同小学校の教頭と教諭の許可を得て 2021 年 11 月 5 日に行われた同小学校の五色塚古墳訪問を観察した。NPO 法人輝かす

みが丘の担当者2名には2021年10月8日に対面で聞き取り調査を行い、随時メールで問い合わせた。韓国伝統打楽器の演奏グループこるもっきのメンバーには2021年10月14日、神戸市立歌敷山中学校教諭には2021年10月13日に対面で聞き取り調査を行った。今城塚古代歴史館の担当者には2021年11月17日にメールで問い合わせを行い、11月23日に回答を得た。今城塚古代歴史館ミュージアムショップの販売員には2021年11月11日に対面で、古墳フェスはにコット実行委員長には2021年12月10日に電話で聞き取り調査を行った。

Ⅱ. 日本における史跡を活用した地域活性化

1. 史跡の定義と活用

文化庁ホームページ「史跡」によると、史跡は、「貝塚、古墳、都城跡、城跡旧宅等の遺跡で我が国にとって歴史上または学術上価値の高いもの」とされている。例えば、千葉県千葉市の加曽利(かそり)貝塚や奈良県橿原市の藤原宮跡、兵庫県明石市の明石城跡、大阪府高槻市の今城塚古墳、兵庫県神戸市の五色塚古墳などが挙げられる(国指定文化財等データベース「史跡名勝天然記念物」)。神戸市文化スポーツ局文化財課(2021)によると、史跡として保存することは、地域づくりに大きな役割を果たす可能性を秘めており、史跡を適切に整備・保存し、文化財としての価値を伝えていく必要がある。濱口(2017)によると、藤原宮跡では本格整備までの暫定整備として、一部の国有地を借用し季節の花を植栽しているとあり、観光目的の訪問者も一定数いると考えられる。

2. 古墳の概要と活用

『国史大辞典』によると、古墳とは、「古代に造営された高塚をなす墓を意味する」とある。

佐々木ほか(2008)によると、前方後円墳などの古墳は、弥生時代後期の墳丘墓とは隔絶した大規模な墳丘を持つ首長の単独墓として、3世紀後半から4世紀初めに各地で出現した。古墳時代中期の5世紀ごろには、世界遺産に登録された大阪府堺市の大山(仁徳天皇陵)古墳に代表されるように、墳丘規

模が巨大化した。

広瀬(2010)によると、前方後円墳を築造当時の姿に蘇らせ、史跡公園として公開する例が増えている。群馬県高崎市の保渡田八幡塚古墳や長野県千曲市の森將軍塚古墳など数多く存在し、最初に整備されたのは五色塚古墳であるとのことである。広瀬は、「古墳の復元には、右へならえ式の整備方式になっているとか、手を加えず自然のままにしておく方が郷愁を誘う等の批判的な声があるとしている。しかし、前方後円墳の正しい理解につなげるには築造当時の姿が必要」といつている。ただし、筆者としては、地域における歴史や景観、信仰・環境などの「地域の履歴」として意義があるものは、必ずしも完全に復元する必要はないと考える。

高崎市ホームページ「かみつけの里古墳祭り」によると、保渡田八幡塚古墳では、秋には濠にコスモスが咲き、「かみつけの里古墳祭り」が行われ、イベント当日は古代の衣装をまとい古代の人々の気持ちになりきって演じているとあるように、古墳を活用したイベントも各地で行われている。

3. 今城塚古墳を活用した地域活性化

高槻市立今城塚古代歴史館(2021)によると、今城塚古墳は大阪府高槻市にある6世紀前半に築造された前方後円墳であり、真の継体天皇陵であると考えられている。古墳の総長は354mで後円部の高さは11mであり、二重の濠がめぐらされている。今城という名前は、戦国時代に城郭として使われたことに由来している。1958年には国の史跡指定を受け、1997年から2005年までの調査を経て、2011年に史跡の整備が完成し、「いましろ 大王の社」として今城塚古代歴史館とともに公開された。今城塚古墳は立ち入りが自由なため正確な訪問者数は不明だが、古墳に隣接する今城塚古代歴史館の担当者A氏によると、2019年度の入館者数は6万人を超えている。ただし、学校団体訪問者数はそのうちの約6,500人であり、教育での利用はあまり多くはないとのことである。

高槻市ホームページ「JR摂津富田駅から徒歩での推奨ルート」によると、最寄り駅の東海道本線摂津

富田駅からは徒歩約 25 分で、推奨ルートの 8 か所に案内板が設置されている。

森田（2017）によると、子どもたちに実際に触れてもらうことが重要だと考え、今城塚古墳公園にはセラミック製の埴輪が原寸大で復元されている（第 2 図）。公園内には多くの説明版が設置されていたり、古墳北側にあるトイレの屋上は古墳全体を見渡せるバルコニーになっていたりしている。また、そこから今城塚古代歴史館までのスロープが伸びている。



第 2 図 今城塚古墳公園の復元埴輪に乗る子ども

2021 年 11 月 11 日撮影

同館の担当者 A 氏によると、高槻市は、地域住民と一緒に古墳を清掃する「いまして大王の杜クリーンアップ」を行っており、森田は繰り返し活動を行うことで地元の方に愛着を持ってもらえると指摘している。

また、はにコットホームページ「古墳フェスはにコット」によると、住民主体のイベントである「古墳フェスはにコット」が毎年 11 月に今城塚古墳で開催されており、さまざまな店舗が食品を提供したり手作りの雑貨などを販売している。出店の規定には「古墳・埴輪・古代がテーマの商品を必ず 1 点以上販売すること」という条件が設けられている。来場者数は年々増加しており、第 8 回目となる 2019 年には 3 万人を超え、同イベントの実行委員長 B 氏への聞き取り調査によると、成功の要因は地元住民の参画が大きな力となったという。

今城塚古代歴史館内には、常設展示室や企画展示室、体験学習室、観光情報コーナー、ミュージアムショップなどがある。常設展示では、高槻市内の歴史をオリジナルのキャラクターを使った音声付きの映像（第 3 図）で俯瞰することができ、子どもを意識したものであると考える。森田（2017）によると、月 1 回の朝市開催に合わせて歴史館も開館することにより、朝市に来た人の何人かは歴史館を訪れており、回を重ねるごとに歴史館と地域とのつながりも深まっている。



第 3 図 今城塚古代歴史館の映像コンテンツで地域の古代史を説明するキャラクター

2021 年 11 月 11 日撮影



第 4 図 今城塚古代歴史館のミュージアムショップ

2021 年 11 月 11 日撮影

ミュージアムショップ（第 4 図）は若者の自立をサポートする NPO 法人が運営していて、古墳や埴輪がデザインされたグッズが販売されている。販売員 C 氏への聞き取り調査によると、グッズの中には

古墳フェスはにコットで実際に出品されたものもあるとのことである。また、地元の米や野菜、伝統野菜を使った漬物が売られていて、同法人が作ったクッキーも売られている（特定非営利活動法人クラウドナインホームページ「はにたんミュージアムショップ」）。

Ⅲ. 五色塚古墳を活用した地域活性化

1. 五色塚古墳の概要

神戸市教育委員会文化財課（2006）によると、五色塚古墳（第5図）は神戸市垂水区にある4世紀後半に築造された前方後円墳であり、円筒埴輪が多く出土していることから千壺古墳とも呼ばれている。古くは『日本書紀』にもみられ、江戸時代には「播州名所巡覧圖繪」など多くの絵図にも描かれた。埋葬者は、明石海峡やその周辺を支配していた有力者であったと考えられており、垂水丘陵南麓の台地突端を利用して築かれ、墳頂からは明石海峡を隔てて淡路島を望むことができる。



第5図 五色塚古墳と管理事務所

2021年7月25日撮影

かつては海岸線に近く、1886年の仮製地形図では古墳前方部の先端から海岸線までの距離は約100mであった。河内（2018）によると、古墳時代には瀬戸内海は朝鮮半島との交流において重要な役割を担っており、神戸市文化スポーツ局文化財課（2021）は、船上から五色塚古墳が望めたはずと指摘している。現在、古墳と海岸線の間には、山陽電鉄本線や山陽本線、国道2号線が通っているうえに、埋め立ても進んでおり、商業施設などが立地している。な

お、走行中の電車内からも古墳の一部を見ることができる。

五色塚古墳の全長は194mであり、兵庫県最大の前方後円墳である。古墳の周囲には周濠と周溝が二重にめぐらされており、3段に盛り上げられた後円部の高さは18.8mである。斜面に敷き詰められた葺石の総数は約223万個、並べられている円筒埴輪は推定2200本であり、古墳づくりに膨大な労力が注がれたことが想像できる。

神戸市教育委員会文化財課（2006）・神戸市文化スポーツ局文化財課（2021）によると、明治・大正時代には人類学者や考古学者が五色塚古墳についての記録を残している。それによれば、誰でも自由に観察することができ、陵墓に比定されなかったことから、旅行者による埴輪の持ち去りも横行していた。鉄道敷設のために前方部の一部が削り取られたことを除いては、松林として保護され、墳丘が著しく破壊されることはなかった。1910（大正10）年に五色塚古墳と小壺古墳は兵庫県で初めての国の史跡に指定された。しかし、墳丘に茂っていた大木は、第二次世界大戦中に木造船の材料や薪にするために伐採され、松根油採取のために松は掘り起こされ、荒廃が進んだ。さらに、第二次世界大戦中から戦後にかけては食糧増産のため墳丘各所に段々畑がつくられ、葺石・埴輪などが多く露出することがあった。

五色塚古墳は、1975（昭和50）年から10年の歳月をかけて国の史跡第1号として整備が行われ、五色塚古墳と明石海峡大橋を対比させるという考えのもと史跡公園として公開された。五色塚古墳の入場は無料で、入り口付近には小さな管理事務所があり、発掘された埴輪や写真資料などが展示されている。また、古墳後円部北側には観光バスを停めることができる駐車場もある。

2. 五色塚古墳と地域の関わり

（1）神戸市における五色塚古墳の活用

①五色塚古墳への訪問者数

五色塚古墳管理事務所が運営している五色塚古墳・大歳山遺跡 web-site「五色塚古墳へのアクセス」によると、五色塚古墳へは最寄り駅である山陽本線



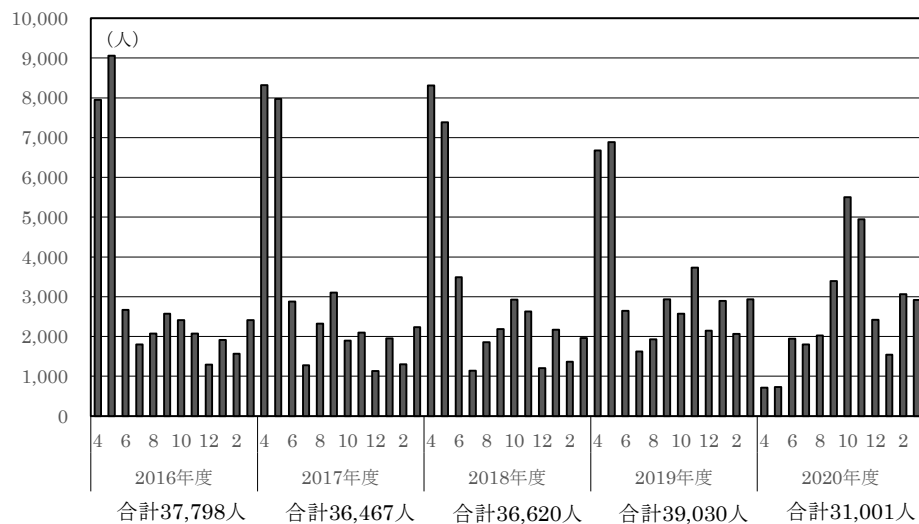
第6図 五色塚古墳への道を示す案内板

2021年9月27日撮影

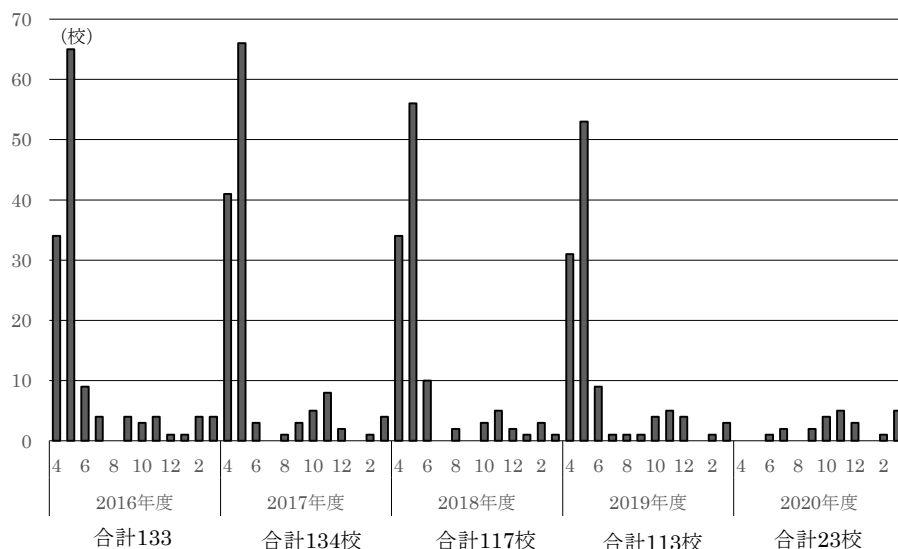
垂水駅・山陽電鉄垂水駅から徒歩約10分とある。筆者が古墳へのルートを確認すると、住宅街の狭い道路に入る分岐点と住宅街の交差点付近の2か所しか案内板は確認できず(第6図)、設置数は十分であるとは考えにくい。

五色塚古墳管理事務所を委託管理している NPO 法人輝かすみが丘の担当者D・E氏によると、五色塚古墳への訪問者数は年間3万人を超えている(第7図)。2019年度の訪問者が多かった要因としては、民放のバラエティ番組やNHKの歴史番組で五色塚古墳が紹介されたことが関係しているとのことである。

D・E氏と神戸市文化スポーツ局文化財課のF氏



第7図 五色塚古墳の月別訪問者数 (NPO法人輝かすみが丘提供資料より作成)



第8図 五色塚古墳の月別学校団体訪問数 (NPO法人輝かすみが丘提供資料より作成)

によると、五色塚古墳には神戸市内の多くの小学校から見学がある。また、市内外を問わず中学校や高等学校、大学などのさまざまな学校団体の訪問がみられる。それらの訪問数の8割近くは4・5月に集中しているが、年々減少傾向にある(第8図)。新型コロナウイルスの影響があった2020年度より前では、総訪問者数に対しての学校団体訪問者数は2割以上を占めていた。

②春季企画展「指定100年記念国史跡・五色塚古墳のあゆみ」における取り組み

神戸市埋蔵文化財センターホームページ「企画展示」によると、2021年は五色塚古墳が史跡に指定されて100年目にあたったため、五色塚古墳のこれまでの歩みを振り返

るとともに、出土資料や絵図などを展示し、各地の史跡に指定された古墳での取り組みを紹介することでこれからの五色塚古墳を展望する企画展である「指定 100 年記念 国史跡・五色塚古墳のあゆみ」が、2021 年 4 月 17 日から 7 月 25 日まで、神戸市西区の西神中央公園内に位置する神戸市埋蔵文化財センターで開催されていた。

この企画を担当した神戸市埋蔵文化財センターの G 氏への聞き取り調査によれば、企画展において最も力を入れたことは、考古的な知識が深い人からあまり関心のない人まで、五色塚古墳について興味を抱いてもらえるように心がけることで楽しんでもらえるようにしたことである。

G 氏によると、2021 年 4 月 25 日～5 月 11 日は新型コロナウイルスの影響により臨時休館していたため企画展開催日数は 72 日で、入館者数は 4,991 人であった。主な入館者として、自由研究の題材を探す夏休み中の小学生や歴史好きの高齢者が挙げられるほか、公園に遊びに来た家族も見られ、同センターが公園内に位置していることや、入館料無料であることが理由として考えられる。



第 9 図 神戸市埋蔵文化財センターが製作した
五色塚古墳のクリアファイル

(筆者蔵)

この企画展に合わせて、五色塚古墳に関するオリジナルグッズである 2 種類のクリアファイルとペーパークラフトを神戸市埋蔵文化財センターが製作した。クリアファイルは、五色塚古墳本体を上空から撮った写真（第 9 図）と同古墳から出土した埴輪を撮った写真の 2 種類である。これらのクリアファ

イルは、一目で古墳が分かるようなベーシックなデザインになるように G 氏が中心となって製作した。神戸市が製作した五色塚古墳に関するオリジナルグッズは今までなかったため、これらが五色塚古墳では初めてのオリジナルグッズであるとのことであった。

前者のクリアファイルは五色塚古墳を北側から撮影し、古墳と明石海峡大橋を対比させる写真を使うことで古墳の巨大さを強調している。G 氏は、五色塚古墳を考えるうえで、立地が大切であると考えたため、それらも写るようにしたとのことである。また、この写真は中学校・高等学校で使用されている歴史の教科書に載っている写真と似たアングルで撮ることで、五色塚古墳の新旧を意識できるようにした。

五色塚古墳に関するグッズには、垂水区のゆるキャラである「ごしまろ」の絵が描かれたものがある。製作されたグッズは、区内のイベント等で配布されているとのことである。これらのグッズはゆるキャラのイラストを使っており、主なターゲットを子どもと想定し製作されたと考える。

③五色塚古墳まつり

神戸市教育委員会は、2014 年から毎年 6 月に五色塚古墳まつりを開催している。ただし、2019 年度は雨天中止となり、2020・2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった。神戸市ホームページ記者発表資料を引用した五色塚古墳管理事務所ブログ記事「お知らせ『五色塚古墳まつり』」によると、多くの市民に参加してもらって五色塚古墳などの地域の文化財をより身近に感じてほしいという趣旨のもと開催された。

同イベントは五色塚古墳で開催され、午前の部は校区内に五色塚古墳が位置する神戸市立霞ヶ丘小学校の児童がパレードを行い、午後の部は有料の土器・埴輪づくりや鏡づくり、無料の火起こし体験や古代衣装試着体験などが行われていた。後述するが、同小学校の 6 年生が制作した埴輪を古墳後円部頂上で円状に並べ、20 名ほどがごしまろと一緒にパレードに参加した（第 10 図）。

こるもっきるの H 氏によると、2017 年度からは韓国の伝統的打楽器を楽しむ団体である「こるもっき

る」がパレードの演奏役として参加するようになった。2019（令和元）年度の五色塚古墳まつりを担当した神戸市文化スポーツ局文化財課の I 氏によると、韓国は古墳文化が入ってきたルートでもあるので、韓国の伝統音楽は古代の音楽と似ているだろうと考え、パレードの雰囲気を出すために依頼したという。

I 氏によると、五色塚古墳まつりを成功させるために、パレードにストーリー性を持たせようとした



第 10 図 2016 年 6 月 11 日に開催された五色塚古墳まつりのパレード

五色塚古墳管理事務所ブログ「大勢の人で賑わいました(^o^)(2016 年 6 月 12 日)」より

り、児童の集中力を保つためにパレードの時間を短くしたりした。また、三種の神器の模型を持たせることを企画していたが雨天中止となった。このイベントに関して I 氏は、古墳本来の使われ方を意識して古墳を活用することで五色塚古墳の価値を知ってほしいとしている。そこには、文化財を知ってもらい大切にしてほしいという思いがあるとのことであった。

午後の部においては古代体験が行われている。神戸市埋蔵文化財センターの J 氏によると、例年の参加者数は、有料である土器・埴輪づくりと勾玉づくりが各 100 名程度であり、鏡づくりは 20 名の限定である。無料で行われている古代衣装体験は 50 名程度である。

④ SNS を活用した取り組み

神戸市文化財課は、Twitter と Facebook の 2 つの SNS を活用している。神戸市埋蔵文化財センターの

K 氏によると、神戸市文化財課の SNS 担当者は、同センターと市役所本庁の両方にいる。両 SNS の開設日は 2020 年 12 月 25 日で、フォロワー数はあまり多くはない。SNS 運営の目的は、イベントの中止や災害情報を発信したり、文化財の情報を発信したりすることで、市民にも文化財の大切さを知ってもらうことである。

Twitter 開設当初に SNS 運営を担当していた同文化財課の L 氏によれば、かつては神戸市埋蔵文化財センターとしての Facebook があったが、市が定める投稿頻度に達しなかったためアカウントが停止になった。そのため、両 SNS の開設当初は、投稿を続けることが目標であったとのことである。また、担当時には両 SNS の特性を活かして、Facebook では文字を主体として詳しい説明内容を投稿し、Twitter では写真を多く使い、要点をまとめたものを投稿していた。多くの人に見てもらうために、投稿内容をフランクにしようと試みたりとさまざまな工夫を行っていた。なお、子ども受けがよさそうな内容を投稿していたが、一部からは文化財本来の情報を発信すべきではないかという声もあったとのことである。一方で、学芸員本来の仕事とは別であり負担が大きくなることも指摘していた。

（２）NPO 法人輝かすみが丘における五色塚古墳の活用

①五色塚古墳の委託管理

神戸市教育委員会文化財課（2020）によると、五色塚古墳は、1975 年の古墳公園開園と同時に神戸市教育委員会の所管となり、文化財課（開園当時は文化課）が管理してきた。開園当時は発掘調査現場事務所を管理事務所とし、嘱託職員が日常管理や案内などを行っていたが、1998 年からは神戸市シルバー人材センターに、2006 年からは NPO 法人輝かすみが丘に委託されている。

日常的な管理運営の一部を委託されている NPO 法人輝かすみが丘が、地元の小学校や地域の団体と連携し、五色塚古墳を活用して地域に密着した活動を積極的に実施している。この理由として、神戸市教育委員会文化財課（2020）によると、史跡の管理・活用では地元住民の力を借り行政との協働で行われ

ることが主流となっており、地域住民の史跡保存や活用への理解が深まり、地域の宝として誇りにつながっていくことが期待できたためである。

NPO 法人輝かすみが丘のD・E氏への聞き取り調査によると、委託管理では、入場者数の統計事務や団体見学の受け入れ調整、学芸員への説明依頼、有償刊行物の販売、管理事務所やトイレなどの清掃、除草作業、駐車場の管理、大歳山遺跡復元住居の管理などを行っている。

D・E氏によると、復元整備以前は濠部に水が溜まっており、ザリガニやカエルが見られた。委託前は草が伸び放題だったため、濠部で花を育てていた。春はレンゲ、夏はひまわり、秋に蕎麦を育てようとしたが、蕎麦は台風の塩害で育たなかったという。

②春の古墳まつり（旧れんげまつり）

D・E氏によると、神戸市垂水区による 2005 年からの阪神・淡路大震災 10 年事業「花いっぱいフェスタ」の一環として、五色塚古墳では NPO 法人輝かすみが丘がれんげまつりを開催することになった。開催目的は、イベントを通じて史跡を身近に感じてもらうとともに、地域内の交流を深め、まちづくりや地元の活性化につなげることであった。

D・E氏によると、れんげまつりでは、霞ヶ丘婦人会がバラ寿司、NPO 法人輝かすみが丘がカレーとおでん、歌敷山中学校の生徒がマジックバルーンやたこせん屋、ジュース販売など、さまざまな地元の団体が模擬店を出していた。バラ寿司で使われているちりめんは垂水産のものにこだわったが、食品衛生の問題から 2017 年ごろに模擬店で生ものが販売できなくなった。

D・E氏によれば、もともと五色塚古墳の濠部でレンゲを咲かせていたが、2009 年に神戸市文化財課の指摘によりレンゲを咲かせる場所を古墳北西部の仮設住宅跡に移動させた。しかし、仮設住宅跡は水がたまりにくかったためレンゲが徐々に咲かなくなった。雑草や鳥害対策として遮光シートや案山子を設置するなど試行錯誤を繰り返したが、うまくいかなかった。2017 年には「れんげまつり」の名前を改めることとなり「春の古墳まつり」へと改名した。その後も、イベント自体に大きな変化はなく、現在

も「旧れんげまつり」で親しまれているとのことである。

③五色塚古墳管理事務所としてのブログ

NPO 法人輝かすみが丘の担当者D・E氏によると、2006 年の「五色塚古墳 web サイト」の公開と同時にブログを始めた。E氏がブログを担当しており、五色塚古墳を身近に感じてもらうために季節感が味わえるような記事を載せているとのことである。同ブログには、五色塚古墳や大歳山遺跡でのイベントの情報や小学生の訪問の様子、テレビ放送の告知、普段の活動の様子などが載せられていて、写真が多く使われている。

（3）学校現場における五色塚古墳の活用

①霞ヶ丘小学校の事例

霞ヶ丘小学校教諭のM氏によると、五色塚古墳は校区内に位置している。同小学校では、主に 6 年生が歴史を学ぶ際に五色塚古墳を活用している。毎年ではないが、五色塚古墳と大歳山遺跡を訪問していて、その際神戸市埋蔵文化財センターの学芸員が説明しに来ることもある。五色塚古墳への訪問は、4～5月に歴史の授業と合わせて行われる。また、低学年では、校区内の動植物観察で訪れることがある。2021 年は 6 年生が 11 月に訪問し、筆者もその様子を観察した。

その際には、学芸員の説明はなかったが、NPO 法人輝かすみが丘が作成したワークシートに沿って班ごとに五色塚古墳を観察していた。ワークシートでは、階段の数や古墳が造られた時代など大きく 7 つの問題が設定されており、子どもたちは協力しながらクイズに挑戦していた。

M氏と神戸市埋蔵文化財センターのJ氏によると、同センターの出張授業において、6 年生約 200 人が埴輪づくりを毎年行っている。制作した埴輪は五色塚古墳まつり午前の部において墳頂に並べられる。このイベントのパレードに参加した児童は、イベント当日に自ら制作した埴輪を持ちながら古代衣装を着て参加した。2021 年度は五色塚古墳まつりが行われなかったため、神戸市埋蔵文化財センターの受付前に制作風景の写真とともに展示されていた（第 11

図)。

M氏によると、埴輪づくりに関しては自分の作品を作ることに夢中で、児童にとっては図工の時間のような感覚だが、古代衣装を着てパレードに参加した児童は歴史を学んでいる感覚があるのではないかと述べていた。「教科書に載っているような古墳が目の前にあり、古墳や埴輪の大きさを実際に体感することができる。それを学習することで、古墳の価値を知り、自分の町を好きになってほしい」とのことである。



第 11 図 神戸市埋蔵文化財センターで展示された埴輪と制作風景の写真

2021 年 7 月 22 日撮影

②歌敷山中学校の事例

神戸市立歌敷山中学校の校区内には霞ヶ丘小学校や五色塚古墳が位置している。NPO 法人輝かすみが丘D・E氏によると、2008 年から五色塚古墳管理事務所として同中学校の生徒を、仕事体験であるトライやるウィークで受け入れていて、地域活動を身近に感じてもらえることを目的としている。午前中は管理棟内や古墳周辺の清掃や草刈りなどの軽作業、午後からは古墳イベントのポスター制作や勾玉作り体験が行われている。

また、同中学校の教諭N氏によると、社会科歴史的分野の授業では、五色塚古墳を知っていることを前提に授業が進められ、カリキュラムの都合上あまり多くの時間を割くことはないとのことである。

(4)「史跡五色塚(千壺)古墳 小壺古墳整備基本計画」の策定

神戸市ホームページ「「史跡五色塚(千壺)古墳小壺古墳整備基本計画」を策定しました」によると、整備の基本方針は、本質的価値の保存に関する整備、史跡の価値を顕在化する整備、歴史文化資産を活かした地域づくりに貢献する整備、周辺の歴史文化遺産を活用する整備の4点である。

神戸市文化スポーツ局文化財課のF氏によると、聞き取り調査時点では計画がスタートしたばかりであり、あまり進んでいないが、アクセスルートの改善から進めていきたいとしていた。また、ガイダンス施設のミュージアムショップでオリジナルグッズや地域の特産物を販売したいという考えを持っていて、その理由は、史跡を見てもらうためであるとのことである。

IV. 結論

本研究では、古墳を活用した取り組みがされている事例といえる神戸市の五色塚古墳を取り上げ、整備された古墳の活用状況や活用の意義を明らかにし、地域にとっての史跡としての古墳の役割について考えることで、五色塚古墳の取り組みにおける今後の課題や、古墳を保存しながらどのように地域づくりに活かしていくのかについて明らかにすることを目的とした。その際、古墳を活用して地域づくりに取り組んでいる大阪府高槻市の今城塚古墳を参考にした。

IIでは、史跡や古墳の概要をふまえながら、日本における史跡の活用例として、奈良県橿原市藤原宮跡を取り上げた後、群馬県高崎市にある保渡田八幡塚古墳で行われているイベントを紹介し、大阪府高槻市にある今城塚古墳での活用例や今城塚古代歴史館について述べた。IIIでは、五色塚古墳に関わるさまざまな人に聞き取り調査をし、どのように活用されているのかについて明らかにした。

史跡を保存することは、地域づくりに大きな役割を果たす可能性を持っているため、適切に整備・保存し、文化財としての価値を伝えていく必要がある。

藤原宮跡で一部の国有地に季節の花を植栽したり、保渡田八幡塚古墳でパレードを行ったりすることは、

観光目的の訪問者も集めることにつながり、史跡を知ってもらうきっかけになるといえる。また、これらの史跡や地域の歴史に興味・関心を持つきっかけになり得る。

今城塚古墳は、築造当時の姿に復元されたのではなく、現状の姿を保存するように復原され、「古墳の履歴」を重要視したものであるが、地域住民が親しみやすく愛着を持ってもらえるような施設づくりを行い、協働的なイベントも開催している。以上の取り組みは、古墳の正しい理解につながるとともに、地域住民が地域の歴史を知るきっかけにもなる。

一方、五色塚古墳については、築造当時の姿に復元され、広瀬（2010）がいう古墳の正しい理解につながると考えられる。神戸市文化財課は、五色塚古墳でイベントを実施し、地元の小学生や韓国の伝統的な音楽の演奏団体が参加するパレードを行ったり、神戸市埋蔵文化財センターで開催した五色塚古墳の特別展に合わせて同古墳のグッズを製作するなどしていた。

古墳の委託管理をしている NPO 法人は、地元の小学校の見学に対して、古墳学習の手助けとなるワークシートを作成し、地元小学校では、小学生が上記のパレードに参加していた。授業では五色塚古墳を見学しワークシートを活用するなどしていた。また、この NPO 法人は、地元中学生をトライやる・ウィークで受け入れ、古墳の管理作業やイベントに関連する作業体験の場も設けていて、古墳と地元の小・中学校をつなげていた。

神戸市文化財課は、SNS を活用して五色塚古墳と関連する情報を発信し、NPO 法人は、古墳を管理していることを活かして、リアルタイムの五色塚古墳をブログで見せていた。

これらのことから、五色塚古墳と神戸市埋蔵文化財センターが離れているにもかかわらず、神戸市の埋蔵文化財担当者は、五色塚古墳をより盛り上げようとしていた。また、NPO 法人は古墳と地域をつなげようとしていた。地元小学校では、児童の実体験を重視した歴史教育の取り組みが行われていた。小学校で自分たちの住んでいる地域の歴史を学ぶことは、その価値や魅力を知るきっかけになり得ると考

える。地元中学校でもトライやる・ウィークの取り組みが行われていたが、歴史教育としての限界はあった。

築造当時の姿に復元されたものの小さな展示スペースがあるだけの五色塚古墳は、今城塚古墳ほど展示などの施設は整備されているとはいえないが、イベントの開催や小学校の歴史教育を通じて、地元の史跡としての古墳や地域の歴史を知るきっかけをつくっている。地域にとっての古墳の価値を知るとは、地域に誇りを持つことや、古墳を未来へ継承する意識につながっていくと考える。

以上から、史跡としての古墳の役割は「古墳の正しい理解につながるもの」と「古墳の価値を知ってもらうためのきっかけ」の、2点であると考ええる。

古墳の正しい理解には、訪問者に古墳をより身近に感じさせる点があると考ええる。また、古墳の価値を知ってもらうためのきっかけは、学術的な知識が深くはない人の興味・関心を引き出すと考える。その結果、訪問者が増加し、古墳の価値がより多くの人に伝えられるのではないだろうか。

五色塚古墳では、古墳を適切に整備・保存し、イベントも行い、小学校の歴史教育においても活用しているが、そうした取り組みの情報を十分に発信できているとはいえず、地域住民に史跡としての古墳の価値が十分に伝えられていないことが課題として指摘できる。そこで、古墳の価値を地域住民により知ってもらうために必要なことを以下で検討する。

まずアクセスの点である。五色塚古墳は、駅からの案内板が十分とはいえず、整備が必要である。また、五色塚古墳と国道2号線を結ぶ道路を作ること、その付近の商業施設からの訪問者も誘導できる可能性があると考ええる。その結果、訪問しやすくなり、訪問者の増加が見込めると考える。

次に情報発信の点である。現在、五色塚古墳に関連する SNS による情報発信を、古墳を知らない人が見ることは多くないと考える。そのため、古墳そのものの認知度をより高めるために、SNS を今まで以上に活用することが必要であると考ええる。具体的には、五色塚古墳に関する情報を主に発信する SNS があってもよいのではないだろうか。五色塚古墳は観

光地として知られているため風景の写真やイベントの告知・結果報告、見学者の様子などの情報をより一層発信することが必要であると考えます。NPO 法人は、五色塚古墳を管理していることを活かして身近に感じてもらえるような記事もすでにブログで投稿している。その発信媒体として五色塚古墳を主に発信する SNS を加えることにより、五色塚古墳を知っている人や古墳好きの人、地域住民、観光目的の訪問者に見てもらうことで、訪問者の増加が見込める。

そして、中等教育における歴史学習の点である。古墳を委託管理している NPO 法人は、トライやる・ウィークで地元中学生を受け入れ、古墳の管理作業やイベントに関連する作業体験の場を設けることで、古墳と地元の中学校をつなげていた。これにより、地域活動を身近に感じることはできるが、五色塚古墳という歴史を十分に活用したものとは言い難い。そこで、あらかじめ五色塚古墳に関する情報をまとめたものを使って生徒に展示物を作らせ、五色塚古墳管理事務所内で展示すれば、トライやる・ウィーク後にも生徒は訪れ、地域の活動にも関心を抱く可能性がある。また、生徒が作成したものを展示すると、保護者も見に来る可能性があると考えます。以上のような五色塚古墳の歴史を活用した取り組みが求められる。

最後に、史跡を保存する自治体の点である。自治体においては、地域にとっての五色塚古墳の価値を地域住民に積極的に伝えることが求められる。地域住民が古墳に興味・関心や愛着を持つようになれば、古墳に関わっている担当者を勇気づけると考える。古墳の正しい理解と古墳の価値を知ってもらうためのきっかけにつながるような取り組みを行うことは、結果的に古墳を活かした地域づくりになるのではないだろうか。

古墳の整備にはさまざまな批判的な声があるが、前方後円墳の正しい理解につなげるには、その最初例である五色塚古墳の整備が果たした歴史的意義は認めつつも、築造当時の姿が必要であるとした点について、今城塚古墳の事例から、筆者は「地域の履歴」として意義のある古墳は必ずしも完全に復元する必要はないと考える。

本研究においては、今城塚古墳を活用している学校団体、今城塚古墳と五色塚古墳周辺の自治会や地域住民への聞き取り調査までには及ばなかった。これらを今後の課題として記しておきたい。

謝辞

本研究においては、神戸市文化スポーツ局文化財課、神戸市埋蔵文化財センター、NPO 法人輝かすみが丘、神戸市立霞ヶ丘小学校教諭、神戸市立歌敷山中学校教諭、今城塚古代歴史館、こるもっきる、古墳フェスはにコット実行委員会の皆様に聞き取り調査及び問い合わせにおいてご協力いただきました。神戸学院大学人文学部の用田政晴先生にもご指導賜りました。心よりお礼申し上げます。

参考文献

- 河内春人（2018）：『倭の五王』中央公論新社
- 神戸市教育委員会文化財課（2006）：『史跡五色塚古墳小壺古墳発掘調査・復元整備報告書』神戸市教育委員会
- 神戸市教育委員会文化財課編（2020）：『史跡五色塚（千壺）古墳 小壺古墳 整備基本計画－保存管理と整備・活用の指針－』神戸市教育委員会文化財課
- 神戸市文化スポーツ局文化財課編（2021）：『春季企画展「国史跡・五色塚古墳のあゆみ」』神戸市文化スポーツ局文化財課
- 佐々木潤之助・佐藤信・中島三千夫・藤田覚・外園豊基・渡辺隆喜（2008）：『概論日本史』吉川弘文館
- 高槻市立今城塚古代歴史館編（2021）：『高槻市立今城塚古代歴史館 開館 10 周年記念特別展示録「大王墓 今城塚古墳の実像」』高槻市立今城塚古代歴史館
- 都出比呂志（2000）：『王陵の考古学』岩波書店
- 濱口和弘（2017）：「特別史跡藤原宮跡を活かした地域づくり・観光振興－植栽花園整備事業の取り組み－」国立文化財機構奈良文化財研究所文化遺産部遺跡整備研究室『史跡等を活かした地域づくり・観光振興 平成 29 年度 遺跡整備・活用研究集会

報告書』 pp.101-106

広瀬和雄 (2010) :『前方後円墳の世界』岩波書店

藤井淳弘 (2004) :「史跡整備事業における古墳整備
の変遷―整備方法編―」「古墳ブームにみる遺跡活
用の将来像」 Archaeo-Clio,5,pp.103-119

森田克行 (2017) :「今城塚古墳の 1500 年」遺跡学研
究,14,pp.4-15

参考 web サイト

特定非営利活動法人クラウドナインホームページ
「はにたんミュージアムショップ」

<http://npo-cloudnine.com/service2.html> (2021
年 11 月 30 日閲覧)

国指定文化財等データベース「史跡名勝天然記念物」
[https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/categorylist?re
gister_id=401](https://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/categorylist?register_id=401) (2021 年 11 月 20 日閲覧)

神戸市埋蔵文化財センターホームページ「企画展示」
[https://www.city.kobe.lg.jp/culture/culture/instit
ution/center/schedule/kikakuten.html](https://www.city.kobe.lg.jp/culture/culture/institution/center/schedule/kikakuten.html) (2021 年
10 月 3 日閲覧)

五色塚古墳・大歳山遺跡 web-site「五色塚古墳への
アクセス」 <https://goshikiduka.org/> (2021 年 9
月 18 日閲覧)

五色塚古墳管理事務所ブログ「大勢の人で賑わいま
した(^o^) (2016 年 6 月 12 日)」
<https://gosikizuka.exblog.jp/25322913/> (2021 年
10 月 25 日閲覧)

五色塚古墳管理事務所ブログ「お知らせ『五色塚古
墳まつり』 (2015 年 6 月 10 日)」
<https://gosikizuka.exblog.jp/24119984/> (2021 年
10 月 25 日閲覧)

高崎市ホームページ「かみつけの里古墳祭り」
[https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014010
800046/](https://www.city.takasaki.gunma.jp/docs/2014010800046/) (2021 年 11 月 21 日閲覧)

高槻市ホームページ「JR 摂津富田駅から徒歩での推
奨ルート」
[http://www.city.takatsuki.osaka.jp/kakuka/machi
/bunkazai/imashiro/1372925540906.html](http://www.city.takatsuki.osaka.jp/kakuka/machi/bunkazai/imashiro/1372925540906.html) (2021
年 11 月 23 日閲覧)

はにコットホームページ「古墳フェスはにコットに

ついて」

<https://hanicotto.com/about/> (2021 年 11 月 24
日閲覧)

文化庁ホームページ「史跡」

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shok
ai/shiseki/](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/shokai/shiseki/) (2021 年 11 月 13 日閲覧)

(もりわき つばさ、神戸学院大学学部生)

(やじま いわお、神戸学院大学)